

卒後研修から見た研修開始時 の質保証と医師国家試験

平成26年11月20日

厚生労働省 医政局

医事課 課長補佐 中田 勝己

平成26年度医師国家試験改善検討部会における検討状況

今後のスケジュール

第1回(平成26年6月18日)

- 検討の方向性について
- 卒前教育における共用試験の標準化を踏まえた医師国家試験の出題数について

第2回

- 共用試験の標準化の方針を評価
- 当該評価を踏まえて、医師国家試験の出題数等への反映の可能性及び反映する時期の検討
- OSCE、医師国家試験受験資格認定の在り方など、その他の課題を検討

ワーキンググループ(WG)において具体的に検討。

第3回

- WGでの検討結果を踏まえて、医師国家試験出題基準の見直し方針等として報告書を取りまとめ

※ 以降は、医師国家試験出題基準改定部会において医師国家試験出題基準の改定を行う。

医師法

(試験の内容)

第9条 医師国家試験は、臨床上必要な医学及び公衆衛生に関して、医師として具有すべき知識及び技能について、これを行う。

(試験の実施)

第10条 医師国家試験及び医師国家試験予備試験は、毎年少なくとも1回、厚生労働大臣が、これを行う。

2 厚生労働大臣は、医師国家試験又は医師国家試験予備試験の科目又は実施若しくは合格者の決定の方法を定めようとするときは、あらかじめ、医道審議会の意見を聴かななければならない。

医師国家試験の歴史

- 昭和21年 第1回医師国家試験（年2回実施、筆記3日間、論述式）
（国民医療法施行令の一部改正により開始）



- 昭和28年 筆記が1日になり、口頭試問を導入（第14回）



- 昭和47年 問題が論述式から客観式へ変更（第53回）



- 昭和50年 筆記1.5日になり、口頭試問を廃止（第59回）
出題数が190題から260題へ（第59回）
出題基準作成のための医師国家試験専門委員会が初めて設置（10月）



- 昭和51～53年 医師国家試験出題基準が初めて策定（昭和53年版）



- 昭和60年 秋試験を廃止し、年1回の実施となり、試験日数も2日間へ（第79回）
出題数が260題から320題へ



- 平成13年 試験日数が3日間へ（第95回）
出題数が320題から500題へ（第95回）

医師国家試験の出題内容

内容と形式

【出題内容】

- 試験問題は、臨床上必要な医学又は公衆衛生に関し、医師として具有すべき知識、技能について広く一般的実力を試し得るものとされている。
- 具体的な出題範囲は、「医師国家試験出題基準（ガイドライン）」に準拠している（平成25年実施分からは平成25年版ガイドラインに準拠）。
- 生命や臓器機能の廃絶に関わるような解答や、倫理的に誤った解答をする受験者の合格を避ける目的で、禁忌肢が設定されている。

【出題形式】

- 多肢選択式・マークシート方式であり、出題総数は500題である。
- 試験問題の内訳は次表の通り。なお、ブループリント(医師国家試験設計表)において、各項目・評価領域毎の出題割合が示されている。

	一般問題	臨床実地問題
必修問題：100題	50題	50題
医学総論：200題	200題	200題
医学各論：200題		

医師国家試験の合格基準

医師国家試験の合否

(1) 基本的な考え方

○必修問題、必修問題を除いた一般問題・臨床実地問題の各々の得点と、禁忌肢の選択状況をもとに合否を決定する。

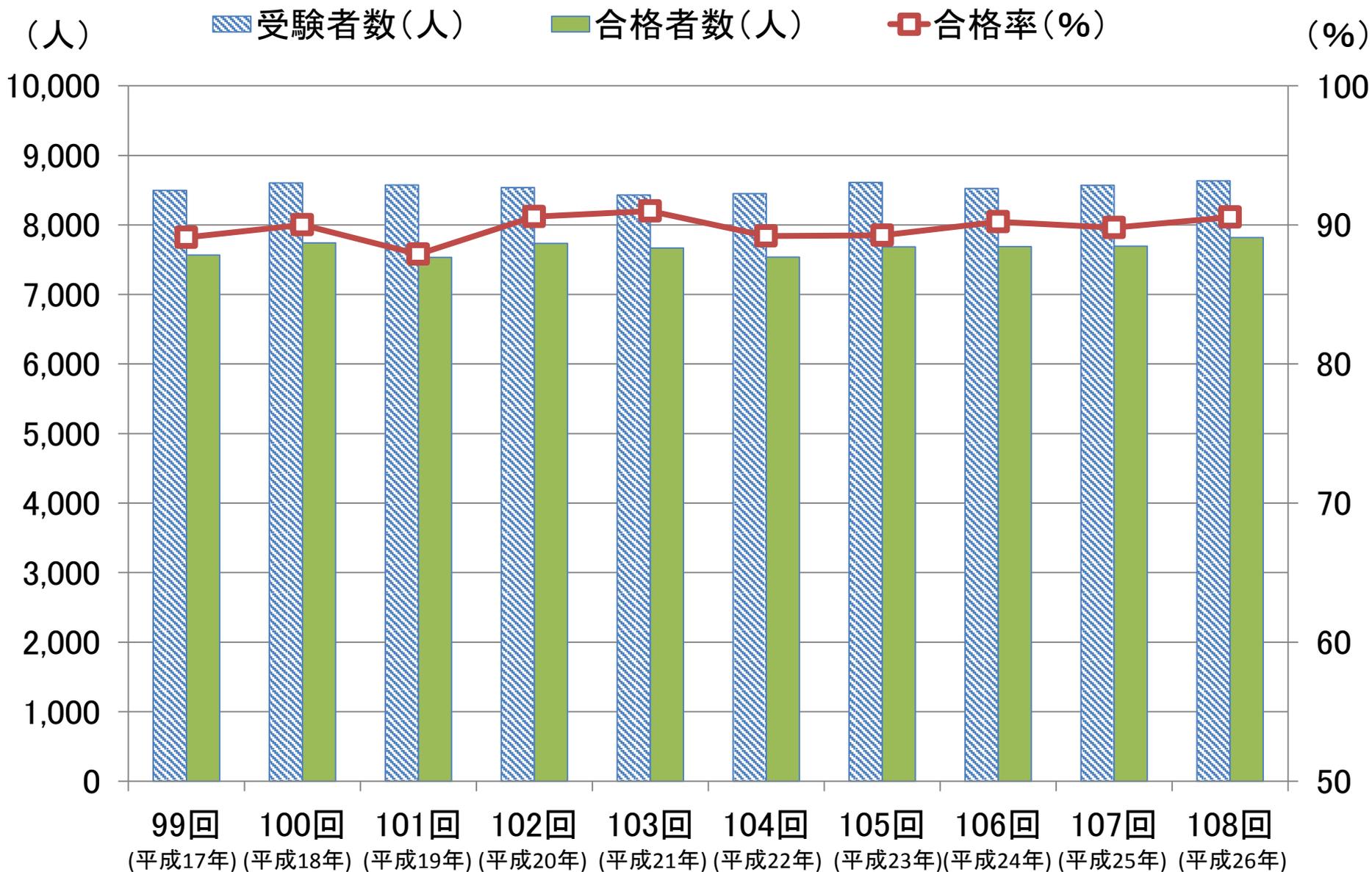
○必修問題の合格基準は絶対基準を用いて最低の合格レベルを80%とし、必修問題を除いた一般問題・臨床実地問題の合格基準は各々平均点と標準偏差とを用いた相対基準を用いる。

(2) 合否判定の方法

○試験の実施結果を踏まえ、医道審議会医師分科会医師国家試験K・V部会において問題の妥当性を検討している。

○同分科会の意見を踏まえて厚生労働大臣が合格者を決定している。

医師国家試験の合格率等の推移



平成26年度医師国家試験改善検討部会における検討状況

「医師国家試験改善検討部会報告書(平成23年6月9日)」の主な課題へ

＜主な課題＞

の対応状況について

＜対応状況＞

1. 医師国家試験の出題内容について

○ 項目毎の出題割合については卒後臨床研修で対応を求められる頻度の高い疾患に重点を置く方向で見直すことが望ましい。

○ 問題作成時には、医学生が臨床実習に主体的に取り組んだ場合に経験可能な事項や卒後臨床研修で実際に対応が求められる状況について、具体的に想定することが重要。等

○ 「医学各論」の出題割合を変更し、試験委員の裁量で頻度や緊急性の高い疾患を優先的に出題できるよう見直しを行い、第107回医師国家試験(平成25年2月)から適用。

○ 医師国家試験委員会において、改善検討部会報告書の主旨を踏まえ、臨床実習や臨床研修の状況を想定して問題作成が行われている。

2. OSCE※(客観的臨床能力試験)について

○ 卒後臨床研修を開始する前にOSCEによる評価が必要であるとの認識は一致。

○ 我が国において標準化が可能なOSCEの確立に向けた段階的な検証が必要。

○ そのためには、日本語診療能力調査をパイロットとして明確に位置付け、実践的な検討を行うべきである。

※Objective Structured Clinical Examination

○ 日本語診療能力調査をパイロットとして、研究班で検証を実施。

○ 研究班の報告では、「評価方法の標準化に関しては、実施方法、課題、課題数、シナリオ作成、評価者養成、模擬患者育成について、課題がある」とされた。

○ 臨床実習終了時のOSCEについて、平成25年度は、全国80医学部中、54医学部(67.5%)で実施。

(「医学教育カリキュラムの現状(平成25年度)」全国医学部長病院長会議)

3. 受験資格認定について

○ 本試験認定については、申請者の受けた教育体制だけではなく個々人の能力を問うことに重点化した審査としていくことが必要。

○ 予備試験や実地修練についても、受験者に求める水準や受験過程を含めて、我が国の医学教育課程との整合性の観点から合理的に見直すことが望ましい。

○ 本試験認定については、日本語診療能力調査において、診療能力の評価が可能となるよう見直しを実施。

○ 医学教育課程との整合性を図る観点から、実地修練については、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」における臨床実習の部分を踏まえて実施。

平成26年度医師国家試験改善検討部会における検討状況

今後の主な検討課題について

〔1. 基本的な方針について〕

（課題）

医師国家試験を卒前教育・卒後臨床研修・専門医制度を含めた一連の医師養成課程の中に位置付けた上で、近年の医学教育を巡る動向を踏まえつつ、その果たすべき役割を十分に発揮できるものとする必要がある。等

（論点）

医師国家試験を卒前教育・卒後臨床研修・専門医制度を含めた一連の医師養成課程の中に位置付けるに当たっては、それぞれの到達目標との整合性が必要。

（考え方）

卒後臨床研修の到達目標は平成32年度の見直しに向け検討を進めているところであり、専門医については、日本専門医機構が認定基準等を策定し、平成29年度からの養成開始を目指して準備を進めている。医師国家試験の位置付けについては、こうした動きも踏まえながら検討する必要があるのではないか。

平成26年度医師国家試験改善検討部会における検討状況

今後の主な検討課題について

〔2. 医師国家試験の出題数について〕

(課題)

医師国家試験においては、基本的臨床能力を問う出題に重点化することが望ましい。

(論点)

- 前回報告書では、具体的な方向性として、「臨床実地問題」の出題を軸とし、250題が出題されている「一般問題」の出題数を再考する余地があるとされている。
- そのためには、「医学部・医科大学において現在統一されていない共用試験の成績評価が、一定程度標準化されることが必要」とされている。

(考え方)

- まずは、各医学部・医科大学における臨床実習開始前の共用試験の実施状況について評価してはどうか。
- また、共用試験の標準化については、共用試験の出題範囲、共用試験の実施方法(受験回数、評価方法)、全医学部での実施可能性等についても検討してはどうか。

平成26年度医師国家試験改善検討部会における検討状況

今後の主な検討課題について

[3. OSCEについて]

(課題)

- 国家試験としてOSCEを導入すべきかどうかについては、報告書において、「医学部・医科大学における卒前OSCEの実施状況を見ながら引き続き議論すべき」とされた。
- 合否判定を伴う医師国家試験としてOSCEを実施することが最適かどうか検討する必要がある。

(論点)

- 我が国において標準化が可能なOSCEの手法の確立が必要。
- OSCEの推進には標準模擬患者への参加を含めた一般市民の協力が不可欠。

(考え方)

諸外国での効果や課題について情報収集し、医学部・医科大学における卒前OSCEの実施状況も踏まえて検討してはどうか。

平成26年度医師国家試験改善検討部会における検討状況

今後の主な検討課題について

〔4. 医師国家試験受験資格認定について〕

（課題）

- 医師法第11条第3号※に基づき、医師国家試験の受験資格として認めているが、近年、第3号に基づく受験資格認定の申請数は増加傾向にある。
- 報告書では、「近年、我が国の医師免許取得を目的として、我が国の大学医学部・医科大学ではなく外国の医学校に進学する者が見受けられ、近年のこの傾向について懸念する意見もある」とされている。

※「外国の医学校を卒業し、又は外国で医師免許を得た者で、厚生労働大臣が前2号に掲げる者と同等以上の学力及び技能を有し、且つ、適当と認定したもの」

（論点）

- 外国の医学校も多様化しており、医学教育の内容を確認することが困難な場合がある。
- 近年、我が国の医師免許取得を目的として、我が国の大学医学部・医科大学ではなく外国の医学校に進学する者が見受けられる。

（考え方）

- これらの状況を踏まえ、第3号の受験資格認定の在り方についても検討してはどうか。

医療系国家試験の出題数

○ 医療系国家試験の出題数

	医師	歯科医師	看護師	薬剤師	理学療法士
出題数	500問	365問	240問	345問	200問
試験日数	3日	2日	1日	2日	1日

参考：United States Medical Licensing Examination（米国）の出題数

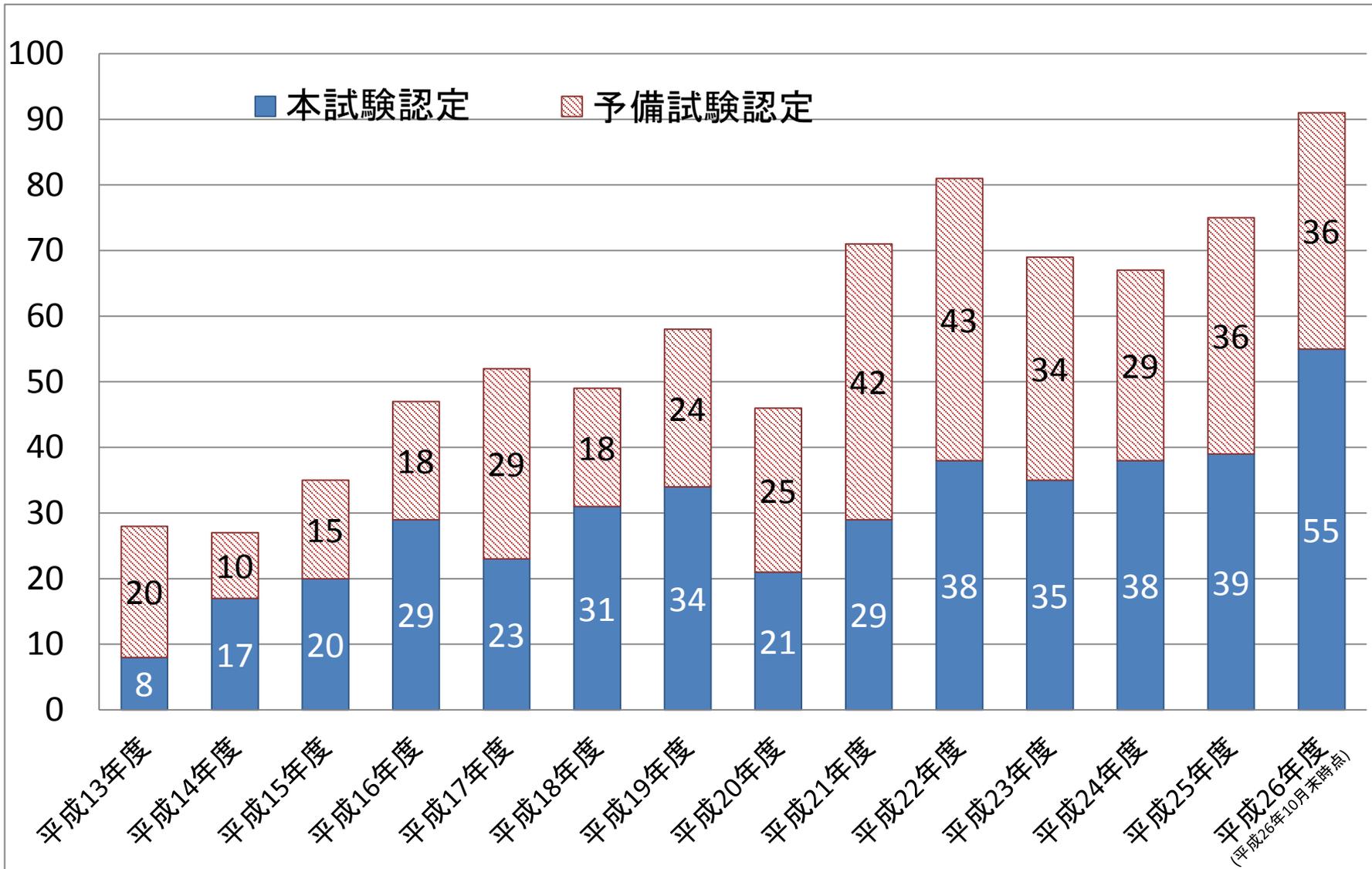
※MCQs: Multiple Choice Questions. 多肢選択式問題

Step1: 基本的医学知識、生涯学習能力の涵養	MCQs 325問
Step2: 指導医の下で医療ができる	MCQs 350問 + Clinical Skills (実技試験)
Step3: 単独で診療ができる	MCQs 480問 + コンピュータシミュレーション症例問題 9問

出典: 平成25年度厚生労働科学研究費補助金「総合的診療能力を適切に判定する医師国家試験の開発と展開」
(研究代表者 奈良信雄)

受験資格認定者数の推移

(人)

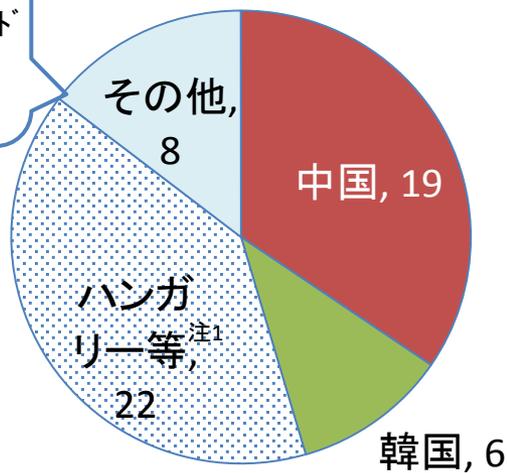


受験資格認定者の内訳(平成26年度)

本試験認定

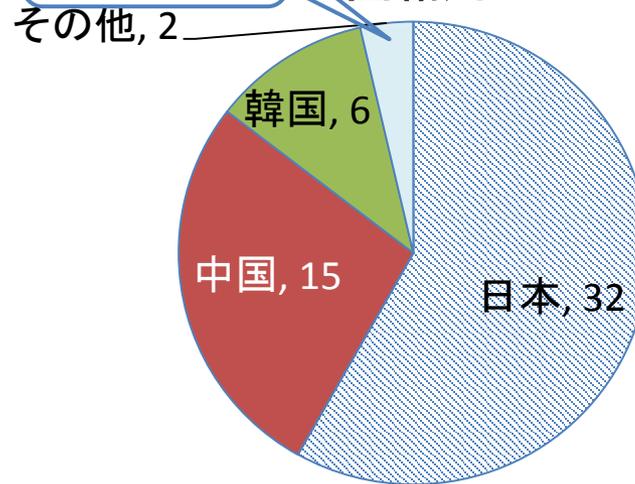
【その他】
英国、スコットランド
ドイツ、ラトビア、
オーストラリア、タイ

学校所在地別



【その他】
オーストラリア、タイ
その他, 2

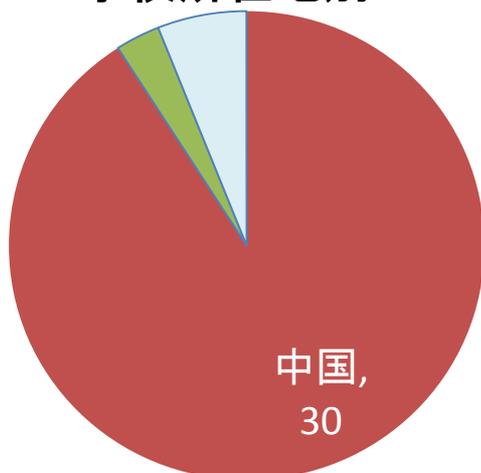
国籍別



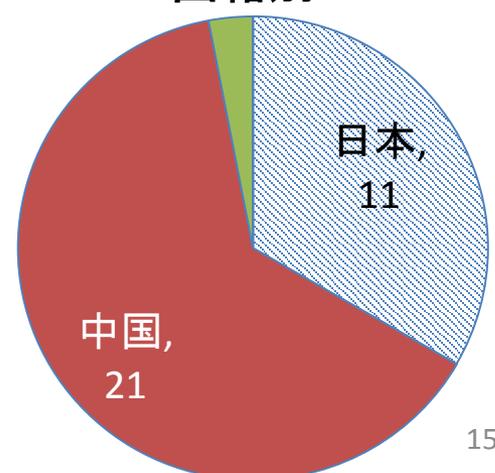
予備試験認定

注2

学校所在地別



国籍別



注1: ハンガリー、ブルガリア、スロバキア、チェコ、ルーマニアを含む

注2: 平成26年10月末時点。

今後の具体的な審議事項について

- 以下の事項については、ワーキンググループ(WG)において集中的に具体的な検討を行う。

1. 出題数について

(1) 出題数・試験日程・導入時期

(2) 出題基準の改定に向けた出題範囲の方向性 等

※ 医師国家試験を通過した後の実態を国家試験に反映するため、現在、臨床研修に大きく関与している診療科等からも意見聴取を行う。

2. OSCEについて

OSCEのパイロット(日本語診療能力調査)等を踏まえた方向性 等

3. 受験資格認定について

諸外国(米国、欧州)の状況や日本における医学教育の標準化の取り組みを踏まえた方向性 等

4. その他

○ 出題内容について

○ 合格基準について

○ 受験回数制限について

○ 試験問題の蓄積(プール制)について

○ コンピュータ製の導入について

○ 年間の試験回数について 等